

「学校は、子どもたちの幸せのためにある」

令和5年度 渋谷区立猿楽小学校

学校経営方針

校長 成田 弥生

1 教育目標

感じ 考え 広げる 子ども

人権尊重の教育を基本に、世界に羽ばたくグローバル人材の育成を目指し、地域社会の一員としての自覚と誇りをもった健康で心豊かな子供を育成する。

○感じる子ども	相手の気持ちを感じたり、四季の美しさ等を感じたりして生活を豊かにする子ども
○考える子ども	自ら問いをもち、見通しをもって問題解決にあたり、思考や観察、調査等を通して、よりよい考えや方法、成果を導き出せる子ども
○広げる子ども	自ら学んだ知識や考えを表現し、他者と共有することで学びを深め生活に生かし、よりよい生き方をする子ども

2 経営ビジョン

～自分が幸せに・周りの人も幸せに～

子どもも大人も笑顔あふれる学校



(1) 目指す学校

○子どもも大人も笑顔あふれる学校

温かな人間関係をもとに、児童・教職員が生き生きと楽しんで活動する

○切磋琢磨し、成長を実感できる学校

互いの考えを大切にし、対話を通して学びを深め、共に成長を実感する

○未来に向けて、変化し続ける学校

サムシング・ニュー（前例踏襲せず）、変化を作り出し、チャレンジし続ける

○誰も置き去りにしない学校

どの子にも居場所をつくり、学びの個別最適化を目指す

○地域を愛し、地域に愛される学校

地域の宝である子供たちを家庭・地域と連携し、共に育てる

『子どもにとって教師は最大の教育環境』

(2) 具体的な取組

目指す児童像①⇒

①主体的に学ぶ児童の育成

「学びを楽しみ、深められる人」

- ・自ら「問い」をもち、学びを深め、思考力・判断力・表現力を育てる
- ・情報機器の活用能力を高め、情報を生かし、学びや生活に生かせる力を育てる
- ・自分の考えをもち、対話を通し協働して学び、よりよい考えを導ける力を育てる

目指す教職員像①⇒

- ・資質向上のためにすすんで学び、授業の充実のために創意工夫する教職員

□「楽しい・分かる・できる」を実感できる授業

- ・45分の毎時間の授業展開を効果的に実施する
- ・導入と発問を工夫し、「問い」をもたせ、自分の考えをもてるようにする
- ・児童の言葉でつくる問題解決型の授業（教える授業から児童が考える授業の展開）
- ・効果的な振り返りと活用のある授業⇒インタラクティブスタディの効果的活用
- ・ICT機器を効果的に活用し、個別最適な学習ができるようにする

□共に学びを深める授業

- ・対話を通して学びを深める⇒対話の方法を工夫し、協働的な学びに機会をつくる
- ・相手意識を育てる⇒「よりよく聞く（聴く）」「分かりやすく話す」
- ・よりよく表現する⇒書く、端末で表現する、工夫して伝える、発表力を高める
プレゼンテーション力を高める
- ・読書の機会をつくり、語彙力の向上と本に親しめるようにする
⇒読書アプリ Yomokka の導入
- ・大人の言語環境を整える（児童の手本となる美しい言葉をつかう）

□授業が第一で授業力・指導力の向上を図る⇒校内研究の充実・TLDの導入

- ・学年専科制（交換授業）、TT指導やテーマ学習等授業形態も工夫し効果的に行う
- ・授業観察の際に、教員相互に授業を観合う（授業ウォッチ）
- ・授業記録に基づく、授業フィードバックを行い、授業交流する機会をつくる
- ・管理職による日常的な授業観察の実施
- ・名人の授業（指導教諭等の示範授業）から学ぶ機会をつくり、課題意識を高める
- ・他校の研究授業や研究発表会に一人が1回以上参加し、参加報告で全教員へ還元する

目指す児童像②⇒ ②思いやりのある豊かな心の児童の育成
「誰とでも付き合える強い心の人」

- ・ 自尊感情を育て、自分を大切に、自信をもって人と関われる子を育てる
- ・ 相手意識をもち、人を大切にする温かい心を育てる
- ・ 多様な人と協働できる協調性、創造性を育て、世界で活躍するグローバル人材を育てる

目指す教職員像②⇒

- ・ 明るい笑顔と温かい心で接し、児童の良さを認め、伸ばそうとする教職員

□言語環境を整える（美しく品のある日本語を使う）

- ・ 名前を丁寧に呼名する（自尊感情を育てる第一歩）
- ・ 児童の発達に応じた、分かりやすい、温かい言葉で話す

□「どの子にとっても分かりやすいを目指して」ユニバーサルデザインの環境づくり

- ・ 見やすい・覚えやすい・聞きやすい・話しやすい・過ごしやすい環境づくり
- ・ 個別最適な学びの環境（授業中・個別選択課題）を設定する
- ・ 分かりやすい表現を用い、ICT活用して視覚化する

□特別支援教育の充実を図る

- ・ コーディネーターを中心に支援教室担任・専門員との連携を図り組織的に対応する
- ・ 特別な支援を必要とする子供について、教職員全員が情報を共有する
- ・ 個に応じた適切な指導法を理解することにより教職員全体の指導力の向上を図る
- ・ インクルーシブ教育及び障がい理解教育を進めていく

□縦割り班活動・異学年交流

- ・ 月に1回のたてわり班活動（共遊び等）を実施する
- ・ 2学年単位の遠足や朝会等を実施する
- ・ 共に活動する楽しさを感じさせ、互いを尊重できるようにする

□あいさつ運動

- ・ 学期に1回、代表委員を中心とした有志によるあいさつ運動を推進する
- ・ すすんで挨拶をする良さを実感し、習慣化できるようにする

□英語・外国語活動・国際交流を通して、コミュニケーション力を高める

- ・ ALT や外国語ボランティアを効果的に活用し、外国語を用いて交流する機会をつくる
- ・ 身近な大使館と交流を通して、世界の国々に関心をもち、交流を楽しめるようにする

□心の教育の充実を図る

- ・ 誰に対しても思いやる心を育て、いじめの起きない学校をつくる
- ・ 道徳指導の充実に向け、自分の思いをだれもが発言できる学級をつくる
- ・ 人権・季節感に配慮しながら掲示や展示を工夫するなど学習環境を整える

目指す児童像③⇒ ③チャレンジする児童の育成

「何があっても乗り越えられる人」

- ・自らの目標や課題意識をもち、すすんで挑戦し続け、実現できる力を育てる
- ・楽しく体を動かすことにより、自らの健康づくりや仲間づくりを進める
- ・地域・社会の活動にすすんで参加し、地域・社会でたくましく生きる力をつける

目指す教職員像③⇒

- ・熱意と使命感をもち、和を大切に連携し、チームで取り組む教職員
- ・児童の変化をよく見て、よく話を聴き・分かりやすい丁寧な言葉で語る教職員

□自主性を育て、チャレンジする良さを実感させる

- ・あらゆる教育活動を子供発で行える場面をつくり、発達段階に応じて育てる
- ・特別活動や委員会・クラブ活動等でリーダーの経験をさせ、自信をもたせる

□児童の理解に努める⇒全ては子供たちのために

- ・子供の変化を見逃さず、いじめの早期発見・早期対応を的確・組織的に行う
- ・子供をありのまま受け入れ、受容的に話を聴き、温かな人間関係を大切にする
- ・子供たち一人一人に、教職員からすすんで声掛けや挨拶をする
- ・生活指導上の課題には全校体制で対応し、関係機関との連携を密に行う
(情報共有・組織的対応・いじめ対策委員会)

□高学年ヒーロープロジェクト（自己有用感を高め、自信をもたせる）☆

- ・下級生のために、活躍する高学年を全教員で育てる
- ・委員会・クラブ活動の他、高学年の活躍の場を作り、プラスの評価を全教員がその場で
行っていく

□猿楽プロジェクト・シブヤ未来科を推進する

- ・金山交流（富山県射水市立金山小学校）で郷土愛や地域を大切にする心情を育てる
- ・大使館交流⇒地域にある大使館との交流を通し、地域から国際理解に繋げる
- ・みんなでダンス ⇒オリジナルダンスの制作に向けて
鉢山中学校と連携し、交流を推進し統合に向けての意識を高める

□地域・保護者と連携し、地域人材を活用し、効果的な教育活動を実施する

- ・授業行事ボランティア・ゲストティーチャー等の外部人材活用を推進する
- ・コミュニティスクールとして、地域からの学校の教育活動への理解と協力を進め、
共に子供たちを育てていく